

第47回日本産婦人科手術学会

O4-3

岡山、2024.11.23.-24.

当院での卵管鏡下卵管形成術の妊娠成績と医療経済的分析について

◎浅井淑子、森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

当院は不妊治療専門クリニックであり、卵管性不妊には卵管鏡下卵管形成術（FT）を実施し、自然妊娠を目指すことを目指しており、一般不妊治療が不成功の場合にART治療を提案している。2022年4月より開始した不妊治療の保険化という大きな変化とART治療の一般化により、今まで通院をためらっていた若年者のみならず挙児希望のある多くの女性の不妊治療クリニックへのアクセスが容易になるなど、数々の恩恵がもたらされている。最終的に少子化に歯止めがかかることが期待される。しかし患者の中には効率を求めてすぐにART治療を希望する者も少なくない。2011年11月から2024年6月までの期間に当院で実施した270例のFT症例について後方視的に検討した。FT後の自然妊娠は59例（21.9%） 平均年齢32.2±5.3才、妊娠までの期間は79±100日（中央値）であった。妊娠した治療内容はタイミング法28例、人工授精31例であった。FT後一般不妊治療にて妊娠せずARTに進んだ211例のうち妊娠した症例は59例（28.0%）、平均年齢34.2±3.4才 妊娠までの期間は320±116日（中央値）であった。ART妊娠群では平均1.4±0.6回の採卵と1.8±1.1回の胚移植を要していた。FT後の妊娠期間と妊娠率はARTの身体的負担を考慮すると比較的若い年齢であれば有効な治療法である。当院でのFTの治療成績について解析するとともに、医療経済的観点からFTの有用性および意義についても検討する。